



一日体験学習

こころを元気にしてあげよう

川内町立川上小学校三年 石山 晴佳

三恵ホームの舞台上で踊りました。大きな声で歌えました。目標にしていたことがよくできました。踊りのつぎに、リコーダーをふきました。そして、お守りを渡しながらみんなと握手をしてまわりました。握手をしていると中にギュッと手をにぎられる方がいました。その人は、うれしそうに私を見つめていました。

その後、ゲームがはじまりました。ジャンケンゲームで山本さんとジャンケンをしました。山本さんはジャンケンがとても強かったです。ジャンケンが終わり、他の人の所へ行き車イスをおしてあげました。すると、「恵子です。よろしくお願いします。」と言ってきました。だから私も「石山晴佳です。よろしくお願いします。」と言いました。それから、恵子さんと一緒にお散歩にいきました。あたたかい所で少し休憩をし、いろいろな話をしました。施設を一周してもとの場所に帰ってくると、恵子さんが「ありがとうございました。」と言って、私の手をギュッとにぎりました。私はその時、とてもうれしかったんだなあと思いました。もうはじめみたいに気持ち悪くありませんでした。それは、友達になれたからです。



『親子体験講習会』に参加して

小川 桂子

私は三恵ホームの職員で、寮母という仕事をしていく中で、自分自身の生き方がこれでいいのか？子供達に見せている後姿はこれでいいのかなどの疑問を持つようになりました。もっと奥深い所で人を思っていないといけないのじゃないかな、そういう生き方を自分自身がして、それを子供達にしっかりと教えていかないと、いじめ、登校拒否、自殺そういったものがなくならないのではないかと感じました。

今の子供達を育てているのは、私達なのだから、私達が、障害を持っていての人とかを、特別の人のような感覚を持っていたりしてないか？そういう心が子供達に写っているのではないか？五体満足であることに、もっと、感謝して、障害を持っていても一生懸命生きていて、大変な努力で車椅子に乗っている姿をしっかり見て、自然な形で触れ合って弱い人達とか、年輩いた人達に対する思いやりとかを育てていかなければいけない反省時期がきているように感じます。

もっともっとこういう機会を増やして数多くの人に体験してもらって、私達親が思い直す必要があるのではないかと思います。そして食事介助とかもさせて頂いて、いい所ばかりではなく本当の形を子供達と共に、しっかり見て行きたいと思えます。子供達も車椅子に乗ってみて、皆んな、本当にすごいなという事を感じたようです。一緒に参加した友人もとても良い体験をさせてもらい障害者への見方が変わったと言っています。

